



↑ 奥火内の様子↑
↑ 奥火内の様子↑
↑ 奥火内の様子↑
↑ 奥火内の様子↑

知るほどに住みたくなる 木の家の魅力

室内環境を快適に保つ調湿性やぬくもりある色合い、心地よいざわりなど、木をふんだんに使った家には住む人を包み込むやさしさがあります。また、環境負荷を減らす効果も見逃せません。人にも自然にもやさしい木造住宅の魅力を紹介します。

地元の材で建てた 週末の家で 自然の恵みを楽しむ

千葉・遠藤さん

横浜に住む遠藤さんご夫妻は、農作業を楽しむため、週末になると千葉の農村に建てた木づくりの家にやってくる。

「この家は夏でもムシとしたり寒くも暑くもないし、冬でも寒くない。それに、木に囲まれた空間は、建物自体が生きているようなぬくもりと安らぎを感じます。他の建物とはまったく違いますね」

という遠藤さんの住まいは吹き抜けを大きく取った開放的な空間で、手台にはヒノキ、柱にはスギを使用。室内の仕上げにもスギの無垢材をたっぷり使いました。これらはすべて地元産の木材です。

「千葉で育った木は、千葉の気候風土にいちばん合っています。それに、木材の乾燥処理は地元産の山を活性化するために」と語るのは、設計を担当した一級建築士の中村さん。同じく参加する「ちばの山を愛する家造りネットワーク」は、山主から林業家、製材所、建築家、工務店、施工までを結びつけ、県産材の利用を促進しています。遠藤さんご夫妻は、週末にキャンプしながら農作業を3年間続けたのも、この土地に家を建てることを決意しました。自分たちの思いをきちんと中村さんに出会い、「ちば山」の考えに賛同。山からの伐採作業や、製材した木を自然乾燥させるストッキングサービスを見学しました。「家の見える家づくり」は、住まいへの愛着だけでなく、地域との絆も一層深めてくれたといえます。

同僚や家族が少なく吹き抜けになった開放的な空間。1階の半分は土間です。2階は階段を介してアクセス

千葉県消費生活センター
お山の恵みを守る家造りネット
http://www.dike.com/jp/

Column 1

国産材住宅普及推進 キャンペーンを実施中!

国産材で家を建てることには、環境保全や林業の活性化などさまざまな意義とメリットがあります。また、この国では毎年55万haの間伐(人工林の樹木の間引き)が実施され、国産材の利用が求められています。

これを受けて、「国産材住宅普及推進キャンペーン」が3月まで実施中。住宅を建てるイベントへの参加や講習会などを通じて建築士や工務店、住宅メーカーといった供給側に国産材への理解を深めてもらうとともに、これから家を建てるよう考える人に向けて説明や相談、ネットの恵みなどさまざまなメディアで国産材の魅力も伝えていきます。



国産材を使った住宅づくりの 魅力を伝え支援を図るウェブサイト

「あなたが木の家のことを知りたい」「国産材で家を建てるのが、高く手が出ないのでは?」。そんな人にぜひ見てほしいのが、「日本の木のいえ情報ナビ」です。

このウェブサイトは、国産材を使った住宅づくりに関するさまざまな情報を提供。国産材ならではの長所や木の家の特徴、国産材で家を建てる際に知り得る工務店、建築士や知財制度の情報などを紹介しています。また、木材に関する疑問に専門家が答えてくれる「日本の木のいえ相談室」も案内。さらに国産材に関するイベントの告知なども随時行い、家づくりに役立つ情報を多角的に発信しています。

国産材住宅普及推進キャンペーン
ずっと住むなら、やっぱり日本の木

日本の木のいえ情報ナビ
<http://www.nihon-kinoie.jp/>

日本の木のいえ中央相談窓口
TEL.03-3585-9311

応援します! 日本の木で住まいづくり